

平成28年度

授業創造プラン

日野市立仲田小学校

1 方策の柱

基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上

- 授業の始め・終わりの時間の厳守や授業規律の確立
- 友達と協力して課題を解決する、主体的・協働的な学びを取り入れた学習活動の工夫
- 「東京ベーシックドリル」「なかだドリル」などを活用した基礎的・基本的な事項の徹底
- ガイドラインに基づく習熟度別指導による、算数科の習熟度に応じた指導・学習内容の工夫
- 4～6年生で実施する各学力調査の分析結果に基づく、授業改善プランの策定・実施
- UD化の環境・授業づくりを推進し、すべての子供が参加でき、理解・習得・活用できる学力の育成

2 具体的な方策・取組

(1) 国語科創造プラン

①「発表する」活動をすべての教科で重視する。

- ・伝え合うことの楽しさや必要性を感じられるように指導し、ペア→グループ→全体（スピーチ・パネルディスカッション等）へと話し合いの範囲を広げる。
- ・少人数の話し合いを多く取り入れることで、思いを伝えたり内容を聞き取ったりさせ、全体の前での話し方を定着できるようにスピーチや発表の機会を多く取り入れていく。
- ・話し合い活動の場面では、自分の意見を先に書いてから話し合いを始めるなど、自分の考えをしっかりと持ち、話し合いに進んで参加するように指導を徹底する。
- ・「発表する」活動は、国語科で系統的に学習するとともに、全教科、領域の学習活動の中で意識的に取り入れる。
- ・日常的に自分の考えとその理由・根拠などを伝える活動を多く取り入れ、論理的な話し方を身に付けさせていく。
- ・役割演技や動作化、吹き出しへの書き込みなどを行い、興味をもって授業に参加できるようにする。
- ・市の「プレゼンテーション大会」などの機会を積極的に活用し、児童の発表力を伸ばしていく。
- ・日常的に話し合いの場面を取り入れ、話すことに自信をもたせていく。

②言葉の学習の充実を図る。

- ・教室に辞書を常備し、日常生活の中でも辞書を活用し、語感を育て、語彙を増やす。
- ・日常的に音読やスピーチ活動などに組み込み、話し方や聞き方についての力を育てる。
- ・文章の暗唱をしたり、漢字指導の中で熟語を使った短文を作ったりして語彙を豊かにする。
- ・漢字やカタカナは、ドリル・小テストやプリントを活用し、くりかえしの練習を重ねる。また、児童全員が合格点を取るまで再テストをしていく。
- ・言葉の意味調べ、教材で扱った言葉や新出漢字を使った短文作りをさせるなどして、言語についての興味・関心を高めるとともに、語彙や文法の理解を深めていく。
- ・新出漢字や初めてのひらがな・カタカナの学習では、毎日の家庭学習の中で、家庭と連携を取りながら繰り返し練習をして確実に身に付けさせるようにする。
- ・授業での言葉集めなどを通して、楽しく文字を用いられるようにする。
- ・漢字検定を学校内で実施することにより、受験者を増やし、漢字学習への関心・意欲を高めるとともに、検定に向けての学習を積ませることにより漢字に対する能力を高める。
- ・ローマ字の学習については、パソコンの授業を通して練習の時間を取り、定着させていく。
- ・漢字の成り立ちや意味、似ている漢字や同じ部首をもつ漢字など関連付けながら指導することで、興味をもたせていく。

③読書の週間を付け、読書量を増やす。

- ・読み聞かせや本の紹介などの読書指導を通して、本への興味を促し、進んで読書をしたいという意欲と文章が読める力を育てていく。
- ・朝の「チャレンジタイム」に朝読書の時間を取り入れ、読書の習慣を身に付させる。
- ・読書に興味をもち、すすんで読めるように、読み聞かせ・ブックトークなどを取り入れる。
- ・いろいろなジャンルの本の紹介を行ったり、読書貯金を行ったりして、たくさんの本を読む環境を

つくる。

- ・図書室を大いに活用し、自分が興味をもっている分野だけでなく、普段手に取らないような本に触れさせる機会を意図的にもたせていく。
- ・春と秋に読書週間を設定し、読み聞かせや本の紹介、教員による「おすすめの本」の冊子の刊行、図書委員会による本の紹介・読書郵便等の活動を行う。また、「親子読書」の取組を行い、家庭での読書の習慣を身に付けるための啓発を行う。
- ・PTAに協力を呼び掛け、朝の時間帯に保護者による読み聞かせを定期的に行い、本への関心を高める。

④「書く力」を高める。

- ・表現の仕方、順序を意識した文章の書き方を指導するとともに、視写、作文、日記などを取り入れ、経験したことや考えたことを文章に表していく。
- ・文章を書く機会を多く設け、短文から長文へ、作文メモから作文に書かせるなどの指導を行う。
- ・書く力を高めるため、目的に応じてグラフ等の資料をもとに、自分の考えを書く活動を取り入れる。
- ・短文作りや授業で共通体験したことを文章に表す学習の機会を増やし、書くことに慣れさせる。
- ・作文指導では、必要に応じて事前に例文やヒントなどモデルを多く掲示し、書く内容や順序を考えやすくする。
- ・全教科、領域において、学習記録や感想を記述して、文章に表す機会をできるだけ多く設ける。
- ・日記を継続的に書く習慣を付けさせる。短い言葉でメモを書き、伝えたいことの中心が伝わるように整理して書かせる。

⑤「読む力」を高める。

- ・特に説明文において、どの学年でも児童の理解の過程を重視した授業を構造化し、自分で文章を読み取る力を付ける。
①一文ごとの理解 → ②形式段落ごとの理解 → ③意味段落ごとの理解 → ④全文を通しての理解 → ⑤自分の言葉で理解したことを表現する → ⑥理解したことを友達と交流して学習を深める
- ・物語文では、登場人物の様子や気持ち・場面の様子等を動作化や役割演技・吹き出し作成・場面絵作成など視覚化・言語化しながら楽しんで読むこと、読んだことをもとに音読の工夫や劇化なども取り入れることで読みを深めていく。
- ・文章の内容や図、表などから必要な情報を正確に選び出す学習の充実を図っていく。必要とされることを明確に言葉、簡単な文章にして考えるなど、問題解決の過程を細かく分けて指導していく。

⑥「聞く力」を高める。

- ・話を聞くときの態度、話の中心や要点をつかみながら聞く聞き方などを指導していく。
- ・「聴写」を取り入れたり、大事な言葉を反復して話させたりすることにより、聞くことのトレーニングをする。
- ・「話す」学習と同時に、「聞く」学習が生まれることを伝え、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめさせる。
- ・話し手の方を向かせたり、一度話したことが聞き取れているか再度確認したりと、日頃から「人の話を聞く」意識を高めていく。

(2)算数科の創造プラン

① 既習事項をしっかりと確認し、基礎・基本の定着、活用を図る。

- ・レディネステスト等で單元ごとに必要な既習事項の定着を確認する。
- ・必要に応じて、学年を超え、つまずきの箇所まで立ち戻った学習を行う。
- ・既習事項を生かして、問題解決型学習を進められるようにする。

② ドリル学習や繰り返し学習により技能の習熟を図る。

- ・チャレンジタイムでドリルやプリントを使い、繰り返し練習させたり、家庭学習で復習させたりする。
- ・計算などの繰り返し学習により、効率よく演算ができるようにさせる。
- ・計算手順を確実に定着させるために視覚的な効果のあるフラッシュカードやワークシートを活用する。

③数学的な考え方を育てる「学び合い」の学習を重視する。

- ・言語活動を多く取り入れ、自分の考えを言葉で表現させる。
- ・ブロックなどの具体物を使った操作で問題文のイメージをもたせる。
- ・絵や図に表して、問題文のイメージをもたせる。
- ・児童の考えをもとに学習を展開していけるよう、課題提示や発問を工夫する。
- ・友達の考え方を聞き、様々な解決方法や表現方法・考え方があることに気付かせる。

④表現力・思考力を育てる学習を重視する。

- ・板書の工夫と連動したノート指導を大切にする。
- ・式を活用する課程では、言葉→式 式→言葉 で表す活動を大切にする。
- ・自分の考えや友達の考えをノートに書き留め、一つの課題について多様な考え方ができるようにする。

⑤ICT・具体物を用いた算数的活動を多く取り入れる。

- ・インタラクスタディなどのコンピュータソフトを活用し、ドリル的な反復学習を行う。
- ・日常の事象と教材を結び付けることで、算数的活動の楽しさや数学的な処理のよさに気付いていけるようにする。
- ・具体的の代わりとなる絵・写真・図表などをパソコンとプロジェクターを使って拡大投影して授業への関心を高め、理解を高める

⑥作業的・体験的な算数的活動を取り入れる。

- ・おはじきを並べる・実物を使う・物をつくる・実物を測るなど、実際に作業したり体験したりすることにより、理解を容易にしたり深めたりする。
- ・日常生活で経験することを学習の中で想起させたり、生活の中でも算数的活動を取り入れたたりする。
(例「時刻と時間」「長さ」)

⑦一人一人の習熟度に応じた細かな指導、個別指導を充実させる。

- ・学力向上支援員の活用やリソースルームティーチャーとの連携を大切にし、個に応じた指導を充実させる。
- ・計算練習では、スモールステップを取り入れたプリントなどを活用する。
- ・学習後、ノートの点検等を行い、一人一人の理解度をチェックして、次時の指導に生かす。
- ・発展的学習などを希望する児童が意欲的に取り組めるよう、ICTを活用する。

⑧東京ベーシックドリル、なかだドリルを活用する。

- ・習熟度別指導が効果的に行われるよう、3年生以上で東京ベーシックドリル、なかだドリルを取り入れる。1学期末までに前学年の内容の「診断シート」を実施させ、個別指導が必要な児童には、夏季休業中の補習講座で補充の学習を行う。
- ・各單元では教科書での学習の後、「練習シート」を活用して、学習内容の定着の確認をする。

⑨ガイドラインに基づく、習熟度別学習を充実する。

- ・3年生以上は、習熟度別担当教諭も含めて、2学級を習熟度別に「補充コース」・「基本コース」・「発展コース」の3クラスに分け、児童の理解や習熟の程度に応じた学習集団を編成する。
- ・児童の理解や習熟の程度等の状況を把握するために、単元に入る前に実施するレディネステストや過去の調査結果等をもとに、考えられるつまずきに応じて、どの段階に立ち戻って知識・理解や技能の学び直しをする必要があるのかを把握し、反復学習等による補充的な指導を取り入れる。
- ・「補充コース」では、具体的な学習到達度を設定し、その達成に向けた段階的・系統的な指導を行う。ユニバーサルデザイン化を図り、「学習の速度に応じた課題や教材・教具等の工夫」「つまずきに応じたきめ細かな段階的指導」等を取り入れていく。具体的には、「刺激量の調整」「場の構造化」「時間の構造化」「スモールステップ化」「視覚化」「共有化」などの工夫をする。
- ・「発展コース」では、学習内容の理解を一層深めたり広げたりする指導や、更に進んだ学習内容の指導を実施する。一方的に教師が知識を伝えるだけでなく、児童が自主的に学習活動を行える問題解決型学習を取り入れる。

(3)理科・社会科の創造プラン

①体験を生かした学習を取り入れる。

- ・地域探検や農家、スーパーマーケット、自動車工場、クリーンセンター、水再生センターなどの身近な施設を見学し、生活と関連させて意欲を高める。
- ・出前授業の活用やゲストティーチャーを招聘し、専門家から話を聞き、理解を深める。
- ・地域教材を活用したり、フィールドワークを取り入れたりして、生活科から社会科への移行をスムーズに行う。
- ・見学をするときの視点を明確にし、記録のとり方について具体的に指導する。
- ・社会的事象への関心をより高めるために、学習している内容が自分の生活とどれだけ密接にかかわっているかを実感させるように体験的活動を取り入れる。
- ・日頃から地図や方位、月や太陽の動きなどに興味関心をもたせ、児童に対する問いかけの機会を増やす。
- ・授業のなかでニュースや時事、外国での出来事などに触れ、児童に興味・関心をもたせる。

②資料活用の技能(社会)を育てる。

- ・算数科「表とグラフ」の学習内容を活用するなど、他教科との関連を図り、理解を深める。
- ・教科書や資料集に掲載されている資料を読み取る活動を定期的に取り入れる。
- ・課題を解決するためには、資料から多くの情報を得ることができ、さらに思考を広げていくことができることを実感させる。
- ・資料を活用して新聞にまとめる。調べた内容を精査する中での気づき、資料を比較した内容、感想等を取り入れるようにさせる。
- ・習得した資料活用の技能を「総合的な学習の時間」の探求活動に生かすことにより、スパイラルに力を高めるようにする。
- ・資料を活用し、適切に表現させるために、資料の提示の仕方を工夫したり、協働的な学習を効果的に取り入れたりする。

③科学的なものの見方・思考(理科)を育てる。

- ・問題解決型学習を中心に「はっきりさせたいこと」を明確にし、学習課題から予想をたて、学習課題をはっきりさせ、実験や観察などの計画を主体的に立てられるようにする。
- ・疑問を見付ける習慣を身に付けさせ、疑問を解決する手段として、実験・観察を中心とした活動を重視する。
- ・実験や観察に使う器具の正しい使い方について、中学年の段階から指導する。また、教師が師範を示すことで、技能の定着を図る。
- ・高学年の実験単元では、「問題」→「予想」→「実験」→「結果」→「考察」の流れを定着させ、事象を正しく見取る力、根拠を説明できる力を伸ばす。
- ・結果を予想する活動を重視し、個々の発想と科学的な見方や考え方を育てる。
- ・観察や実験で分かったことを言葉や図・グラフを用いて、観察カードやノートに分かりやすくまとめる活動を重視していく。
- ・問題解決の過程で、実験結果や表から分かったことを文章でノートに書き表す活動を通して、考察する力を身に付けていく。
- ・実験後の考察を大切に、友達との話し合いなどで考えを交流する時間を設定し、様々な考え方や見方ができるように指導していく。
- ・ICTを活用し、学習資料を充実・補完し、児童の関心・意欲を高めるとともに、知識・理解の確実な習得を図る。

(4)UD化の環境・授業づくり

すべての児童に分かりやすい授業を目指して、授業のUD化を図る。

- ・場の構造化 …… 整理整頓された、分かりやすい環境をつくる。
- ・時間の構造化 …… 授業全体の見通しや時間配分が分かるようにする。
- ・刺激量の調整 …… 教室の前面・黒板には掲示物を貼らない。授業に必要な情報だけを掲示する。
- ・ルールの明確化 …… 学校全体のルールを明確にし、全校で徹底する。
- ・相互理解の工夫 …… 学習の場面で、助け合って課題を解決したり、個々が活躍したりする場面を意図的に取り入れる。
- ・焦点化 …… 授業における学習内容の本質を見極め、ねらいを明確にして、学ぶべき事柄を一点に集中し、授業をシンプルにする。
- ・展開の構造化 …… 何からどのように体験させるか、説明するか、焦点化した内容を伝えるのに最適な展開を精査し、根拠をもって決定する。
- ・スモールステップ化…課題へのアプローチに個に応じた細やかなステップを設ける。
- ・視覚化 …… 抽象的なものや見えないものを「見える化」し、児童にイメージをもたせる。
- ・感覚の活用 …… 身体を通しての理解(感覚)を授業の中に取り入れる。
- ・共有化 …… 「共同化」や「学び合い」を取り入れ、互いの考えを伝え合ったり確認したりする活動を大切にし、友達の考え方を自分の意見のモデルや下敷きにして、自分の考えを深める。
- ・スパイラル化 …… 一度学んだことを「繰り返す」視点を授業に取り入れる。